

報道機関各社 様

## 能楽×アイヌ古式舞踊「北の大地を<sup>ことほ</sup>寿ぐ」を開催！

札幌国際芸術祭 2014 の開催を祝し、能楽とアイヌ古式舞踊がモエレ沼公園で共演！

「札幌国際芸術祭2014」の成功とアイヌモシリとも呼ばれる北海道という土地、人、あらゆる生き物を寿（ことほ）ぐ意味を込め、能の原点といわれる「翁」と、この地の先住民族アイヌの古式舞踊を同じ時、同じ空間で実施します。

この公演はゲストディレクターである坂本龍一の企画に、狂言師、野村萬斎と帯広カムイトウウポポ保存会会長 酒井奈々子が呼応して実現しました。シテ方観世流宗家、観世清河寿を筆頭に、当代最高の能楽師が、「翁」のほか「高砂祝言之式」、「福の神」を演じます。さらに、十勝地方のアイヌ文化を伝承し、道内屈指の実力を誇る歌い手・踊り手達が、「サロルンリムセ（丹頂の舞）」や「エムシリムセ（剣の舞）」などアイヌ古式舞踊の華ともいえる演目の数々や、「オイナ（神謡）」等を披露します。

この公演につきまして、広く市民に周知を図るため、皆様の媒体でご紹介いただけると幸いと存じますので、ご協力をお願いいたします。

※寿ぐ：喜びや祝いの言葉を述べる。言葉で祝賀すること。



野村萬斎

1 事業名 能楽×アイヌ古式舞踊「北の大地を寿ぐ」

2 日時・会場 平成 26 年 7 月 22 日（火） 18：30～  
モエレ沼公園（東区モエレ沼公園 2）  
ミュージックシェル及びプレイマウンテン

3 演目 <能楽>  
翁、高砂 祝言之式（能）、福の神（狂言）  
<アイヌ古式舞踊>  
サロルンリムセ（丹頂の舞）、エムシリムセ（剣の舞）、オイナ（神謡）  
ほか

4 出演 野村萬斎、観世清河寿（シテ方観世流宗家）、  
帯広カムイトウウポポ保存会ほか



帯広カムイトウウポポ保存会  
（写真提供：十勝毎日新聞社）

## 5 チケット

券種	金額	備考
<b>プレミアムチケット</b> 雨天・強風時は道新ホールで観劇可能(払い戻し不可)	6,500円 (税込)	<b>入場開始 17:30～</b> ※芝生に直接お掛けいただきます。(椅子はありません。) ※札幌スタイル認証製品である敷物「さくらシート(90cm×90cm)」付 ※購入順に付番される入場整理番号付チケット。入場開始までにお並びいただくと、入場整理番号順に入場することができます。
<b>一般チケット</b> 雨天・強風により会場変更となった場合は払い戻し	2,000円 (税込)	<b>入場開始 16:30～(先着順)</b> ※石段の上に直接お掛けいただきます。(椅子はありません。)

※未就学児入場不可。

※プレミアムチケットご購入希望で車いすの方は、チケット購入前に必ず国際芸術祭事務局にご連絡ください。(平日 8:45～17:15 電話 011-211-2314)

※両券種とも椅子の持込はご遠慮ください。

※チケットの取り扱いは、ローソンチケット(Lコード:19526)、チケットぴあ(Pコード:438-056)のほか大丸プレイガイド、道新プレイガイドなどで、6月21日(土)から発売開始(全席自由)。

## 6 雨天時・強風時の会場変更について

雨天時・強風時は会場を以下の通り「道新ホール」に変更し、開演時間を1時間繰り下げます。会場変更する場合は、当日13時以降に札幌国際芸術祭2014のHPにて発表致しますので必ずご覧ください。または札幌市コールセンター(TEL 222-4894)へお問い合わせください。

雨天時・強風時は会場及び開演時間が以下の通り変更となります。

**日時・会場** 平成26年7月22日(火)

19:30～ 道新ホール(中央区大通西3丁目)

※会場変更の際には、一般チケット保有者は払い戻しとなります。

※プレミアムチケット保有者は、18:30の入場開始までにお並びいただくと、入場整理番号順に入場することができます。(払い戻し不可)

※会場変更に伴う交通費は、観劇者の負担となります。

## 7 アクセス

駐車台数に限りがございますので、公共交通機関のご利用にご協力ください。公演終了時間に合わせ、「栄町駅・麻生駅行き」及び「環状通東駅行き」の路線バスを公園東側駐車場から増便運行いたします。

## 8 プロフィール

○野村 萬斎(のむら・まんさい)

狂言師。1966年生。野村万作の長男。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化

財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、芸術祭優秀賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。本公演（能楽）の監修として、構成・演出を担当。

### ○観世 清河寿（かんぜ・きよかず）

シテ方観世流。1959年生。二十六世観世流宗家。故二十五世観世左近の長男。父に師事。室町時代の観阿弥、世阿弥の流れを汲む観世流宗家として現代の能楽界を牽引する。国内公演はもとより、フランス、インド、タイ、中国、アメリカ、ドイツ等の海外公演や「箱崎」等の復曲、「利休」をはじめとする新作能にも意欲的に取り組み、2012年にはキリシタン能「聖パウロの回心」を初演した。重要無形文化財総合指定保持者。芸術選奨文部科学大臣新人賞、芸術選奨文部科学大臣賞など受賞。フランス芸術文化勲章シュバリエなど受章。財団法人観世文庫理事長。社団法人観世会理事長。

### ○帯広カムイトウウポポ保存会

アイヌ民族の誇りを胸に、伝統的な古式舞踊や儀式などを後世に伝えていくために、1964年設立。北海道内の各地にある保存会の中でも最も古い歴史を持ち、1984年に国の重要無形民俗文化財に指定された。2004年に初の九州公演を成功させ、2007年には東京国立劇場で開かれた文化庁主催の国際民族芸能フェスティバルに出演した。現在、同保存会が伝承している歌や舞踊は30種類以上。アイヌ民族固有の文化の伝承と十勝開拓の歴史を歌と踊りで再現し、アイヌ文化の理解促進に努めている。本年は設立50周年の節目の年を迎える。

## 9 会場写真



モエレ沼公園 ミュージックシェル



プレイマウンテン石段

(ミュージックシェルから望む)



詳細) 創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局 (札幌市観光文化局国際芸術祭担当)  
小倉・山田 電話: 211-2314

## 能楽 演目及び出演者

翁 翁 観世清河寿  
三番叟 野村萬斎  
千歳 観世喜正  
面箱 内藤 連

[解説]

神事である「翁」は「式三番」というのが正式な名称で、“能にして能にあらず”と言われるとおり、能でも狂言でもなく、すべての点で古風な様式を持っている儀式性の強い演目である。天下泰平を祈る翁に対し、三番叟は五穀豊穰を寿ぐ。

高砂 祝言之式 住吉明神 観世清河寿  
阿蘇宮神主友成 森 常好  
従者 森 常太郎  
笛 藤田六郎兵衛  
小鼓頭取 大倉源次郎 脇鼓 鵜澤洋太郎 清水和音  
大鼓 亀井広忠  
太鼓 大川典良  
後見 観世恭秀 上田公威  
地謡 大江又三郎 岡 久広 永島忠修 武田尚浩  
浅見慈一 角幸二郎 泉雅一郎 坂口貴信  
働き 上田彰敏 関根祥丸  
狂言後見 深田博治 高野和憲

[解説]

九州阿蘇の宮の神主が京に上る途中、播磨の高砂の浦に立ち寄ると、松の周りを掃き清める老夫婦に出会う。神主が相生の松はどれかと尋ねると、今掃き清めた松がそれだと答え、この高砂の松と離れた住吉の松がなぜ相生の松と言われるのかを語り、自分たちこそその松の精だと言い残して、小舟で沖へ出てしまう。(中入り) 神主が浦人の舟で住吉に渡ると、住吉明神が現れ、舞を舞い天下泰平を祝福する。

祝言之式では、中入り後、後シテが舞う舞の部分の上演になる。

福の神 福の神 野村萬斎  
参詣人 深田博治  
参詣人 高野和憲  
地謡 岡 聡史 中村修一、内藤 連 飯田 豪  
後見 月崎晴夫

[解説]

二人の男が毎年、大晦日恒例にしている福の神詣でへと出かける。神前に参拝し、年越しの豆をまいているところへ、明るい笑い声をあげて福の神が現れる。福の神は、熱心に参詣する男たちを幸せにしてやろうと思い現れたと言い…。

豆まきは元々大晦日の追儺という行事に由来したもので、現在行なう節分の日も旧暦の大晦日にあたります。狂言に登場する神は、夷や大黒など庶民に親しみやすいものが多く、福の神の笑いは、それだけで観る者の心を和ませ、福を振りまく。

# アイヌ古式舞踊 演目及び出演団体

出演団体：帯広カムイトウウポポ保存会

## 演 目

	演目	解説
1	シントコサンケ	酒造りの最中に歌われる歌で「酒絞り歌」と「酒漉し歌」がある。「酒絞り歌」は、発酵して飲めるようになった御神酒を、柄杓とザルで漉し、別のシントコに入れる際、周りの女性達によって「穀物の酒 座にある酒 しっかり絞れよ」と歌われる。
2	ウタリオブンバレ	「ウタリオブンバレ」は宴もたけなわになると誰からとなく立ち上がり輪になって踊りだした踊りと歌。こうした輪踊りは近隣のコタンの人など大勢集まった時に踊ることが多く、他のコタンの人の歌に合わせてその場で創作するなど即興的な踊りが多い。
3	フミウス	杵搗き踊りは、各地方のアイヌに伝えられている。十勝地方の「フミウス」は、その昔アイヌが和人の所に行き、足踏み式で杵を搗く「踏み臼」を使って穀物を脱穀している様子を見て作られた踊り歌。
4	サランペ	「サランペ」は、布、または絹という意味。言い伝えによると、その昔、和人から新しい布地を貰い、その喜びを表現した踊りと言われている。
5	サルキウシナイ	アイヌには自然の風景や、四季の情景をモチーフにした踊りがあり「サルキウシナイ」とは、「ヨシが群生する沢」という意味で、コタン近くにヨシがたくさん生えている所があり、そのヨシが風で大きく揺れる様子を表現した踊りと言われている。
6	ク リムセ	男の踊りのための歌。言い伝えによれば、狩りに出掛けた男が空を見ると親子の鳥が仲良くぐるぐると踊るように飛び回っている。男は自由に飛び回る鳥の姿、美しさに感動し、矢を鳥に向けて放つことを思いとどまったという話を歌や踊りで表現している。
7	ムックル	「ムックル」は、アイヌの人達の楽器で、竹で作られた物。女性達が口にできない思いを込めて、恋人に向けて奏でたものだといわれている。それが相手の胸に言葉となって伝えられると信じられている。
8	サロルンリムセ	「サロルンリムセ」鶴の舞。親鶴が幼い子鶴をいたわり育て、子鶴がついには大空高く飛べるように成長するまでの過程を描いた歌と踊り。
9	イフンケ	「イフンケ」とは、子守唄の意味。
10	ヘレカンホ	伝承者の話によると「水鳥が沼や池で泳いでいる様子を歌と踊りにしたもの」であり、その昔、白鳥とも思える大きな水鳥が水辺で遊び戯れる様子を歌にしたものと伝えられている。
11	エリリムセ	豊年祈願の歌と踊り。種を撒く溝にアワを撒く作業の様子を歌と踊りにしたもの。
12	バッタキウポポ	昭和12年から昭和13年頃に、十勝地方でバッタが大発生した事を、後世に残しておこうと作られた踊りで、十勝地方特有の踊り。
13	エムシリムセ	「エムシリムセ」剣の舞。アイヌの人達は、豊かな自然界の至るところに神々が姿を変えて住んでいると信じている。中には悪さをする神もいる。そこで、悪い神がコタンに災いをもたらさぬように威嚇を目的に剣を激しくぶつけ合って勇壮に踊る。
14	ポロリムセ	「ポロリムセ」とは、大きな輪踊りという意味。「ポロリムセ」の歌詞には時として、言葉の意味がない掛け声もある。これは踊り歌には神と人間が一体となって喜びを分かち合い、神に呼びかけるという意味が込められている。